

「世代を越えた仲間作りの場として」

高島市文化協会副会長
中川加津子

今年のかつてない異常気象が続いていますが、雨に濡れて咲くアジサイの花の彩りが心を和ませてくれます。会員の皆様には、日々つつがなくお過ごしのことと存じます。又、文化協会の活動・運営に御理解、御協力を頂きありがとうございます。

新旭支部も合併以前の三十余年を加えまして三十八年の歴史があり、地域の人々の生涯学習の場として、公民館を拠点に学びの輪の軸となり、人と人の交わりの交わりの輪が広がっていきました。そして文化・芸術・芸能等それぞれの分野で造詣の深い諸先輩の方々が、熱心に導き育てて下さった御尽力の賜物と感謝し、志を継承して参りたいと思っております。

又一昨年より文化協会の活動だけでなく、新旭子供七夕まつりや青年チャレンジクラブの夏まつり等、他の地域の活動にも参加させて頂き子供達や若者達と一緒に行動するだけで、汗を一緒にかき元気もいっぱいもらいます。今年もその日が来るのを楽しみにしています。

文化協会もそれぞれのクラブで特長を出し活動されていますが、会員の高齢化も気になっておられるかもしれません。今後は出前教室や体験教室等で、世代を越えた仲間作りをしてみようでしょうか。

七月上旬には文化祭実行委員会を立ちあげより充実した文化祭になるよう会員の皆様の力強い御協力と御指導の程よろしくお願い申し上げます。



クラブ紹介



登り窯の前
川邊 研一さん
〔雅号：川邊一平さん〕



情報交換とクラブ員の親睦を深めるために開く、月に一度の昼食会には、手作りのごちそうが並びます。和気あいあいと笑い声の響くギャラリ―「陶」で集合写真を一枚。
昨年十一月、陶芸体験教室に参加された小学生や一般の方は二十五名。初めての方が殆どでしたが、ユニークなものから実用的な器まで楽しい作品が出来上がり、乾燥・素焼き・菜かけ・本焼きの工程をクラブ員が応援して完成させました。大変好評でしたから今年も企画しています。
年に二回、六・七月と十月に登り窯で焼きますが、三晩の間、火を絶やさないと交互に管理する必要があります。作品の仕上げを楽しみしながら、クラブ総勢十一人のクラブ展は、九月にギャラリ―「陶」で展示します。是非、ご覧ください。みなさんも一緒に作品を作ってみませんか。

陶芸クラブ (新旭)



西近江三味線体験教室 (今津)



三味線の体験教室を始めて二年目を迎えました。次世代の子ども達に和楽器の魅力や楽しさをわかしてほしい！その思いで松陽台の永井先生と二人三脚で、体験教室のチラシを持って小学校や公民館をお願いして回り今日に至りました。
体験教室の一時間で簡単な曲を弾いて「面白い」「やってみよう」と思ってもらえたら最高です。体験教室で始めた生徒さんも二年目に入り、秋の文化発表表という目標を持って、月の練習をしています。
一回の練習をしています。日本の伝統文化の継承、保護、次世代育成を目的に、でも、かたいことは言わず、いろんなジャンルの曲を三味線で表現したいと思っております。
最後になりましたが、日本民謡寿民謡会の家元、会員の皆さまには後援していただきありがとうございます。
指導者 南 とし子



下澤千代子さん



心がほっと和み、またつい顔がほころんでしまう…そんな優しい作品がずらりと並んでいます。二月・三月に展示したクラブ主催の「竹紙に描く絵手紙展」では、全国から二百二十六点の出品があり大盛況でした。
日本絵手紙協会公認講師の柰田トミ子さんは、第2、第4金曜日の午前中安曇川公民館で十一名のクラブ員さんを指導しておられます。作品を描く前に、筆の柄の一番上を持ち半紙にゆつくりと何本も線を書きます。次に円を書いて筆が手になじんでから作品にとりかかるとのこと。まず絵を描いて色をつける。それから言葉をおきます。筆の先を優雅に動かして思いのままに仕上げていくと、味わい深い絵手紙が完成します。みなさんこの楽しさにはまってしまったと、熱心に筆を動かします。
クラブ最高齢の下澤千代子さんは七十八歳。いきいきと笑顔でスニーカーを描いておられました。時に笑い声がひびく教室には絵手紙が伝える「癒し」を感じました。

絵手紙ミニミニクラブ (安曇川)

「素晴らしい生涯学習」

高島市文化協会副会長
藤橋市子

早いもので今年もすでに半年が過ぎてしまいました。皆様健やかに日々お過ごしのこととお察し申し上げます。

この度の東日本大震災には、余りにも大きすぎ想像を絶するものでありました。巨大地震、大津波、原発事故…多くの被害者の方々に一日も早く今まで通りの生活に戻って頂ける様心からお祈り致します。

さて今日の改選によりまして身に余る重責をお預かりする事となり、日増しに責務の大きさを感じている次第でございます。高島市の文化協会が合併して7年目に入るわけですが、各支部の持ち味・活動の有り方は多少の違いは当然の事乍ら、そうしたことを生かす互いにコミュニケーションを計りつつ連帯意識が徐々に深まり、大きな輪の広がりを感じるようになってまいりました。なかでも高島市文化祭の開催には、数多い文芸作品の展示芸能発表ではいろんなバラエティーに富んだ巾広さを感じさせられると共に、未来に向けての新しい息吹を感じました。

伝統芸能の伝承には常に前向きに取り組み先人から伝え受けた高島音頭は地域挙げての広がりによって、「高島市が一つ」文化協会合併の意識向上に一段とつながるものと思っております。そして今年度は文化協会会員増強に目標を掲げております。会員様をお願いでございますが、長年にわたり築きあげられた文化活動は素晴らしい生涯学習であり、元気の源でもあります。どうか80才、90才、100才と続けて頂きたいと思っております。そして新しく入会される方に入り易く魅力を感じて頂けるようなクラブ体制にみんなで努力したいと思います。いろんな方との出会いに、日々生活が楽しく過ごさせて頂くのも自身の気持ちにあると思っております。

最後に、高島市文化協会の益々の発展に向け皆様方のご協力を心からお願い申し上げます。